

小山谷津の今・昔 ～千葉市より委託・平成30年度・生物調査聞き取り調査から～ 赤シャツ親父

平成30年度の1月、千葉市より「生物調査聞き取り調査」の依頼を頂きました。この調査は、環境関連団体の活動拠点を中心とした周辺の環境について、過去から現在に至るまでに、どのように変化して来たかを、古くから地元にお住まいの方々にお話を伺いながら明らかにすること、この調査を切っ掛けに地元の方々との交流を深めることを目的としておりました。小山YPPでは、日ごろから田作りに係り、地元の方々には沢山のご助言・ご助力を頂いたり、立ち話に混ぜて頂き「こんなお話聞いたことない！」などと驚く事も多く、それらの一部でも書き留めておける、ありがたい機会を頂けたと言えます。

【方法】

・2人一組で訪問・設問用紙を基にインタビュー

地元の方々との縁の深い4人のメンバーにて2人一組のグループを2組編成し、各グループそれぞれ2人の地主様を訪ね、次の設問に則りながら、色々なお話を伺いました。

・設問と報告

- 1.昔は見られたが今は見られなくなった生き物は何？、それらが観られなくなった時期はいつ？
- 2.昔は見られなかったが今は見られるようになった生き物は何？、それらが観られるようになった時期はいつ？
- 3.昔と比べて身の回りの環境で変わったと思うことは何？ 市への要望等は？

以上を伺った結果は、指定のシートに整理したうえで、千葉市へ報告します。今回の報告では、地元の方々のお話した通りに記載することを大切に、名称や時期などの正確性にはある程度の揺らぎを含みました。

【お話の紹介】

話題は、生き物から昔話まで幅広く及びましたが、お話に共通性が高く、田んぼとも縁の深い、水辺の生き物について紹介します。

☆水源（位置関係は、図2参照）

小山の水源は昭和の森と谷津の湧き水で賄われている。昭和の森が分水嶺となり下田池（こちら側）と小中池（むこう側）の二手に分かれています。こちら側は現在の「水辺の里」から村田川につながって、先は東京湾へ至っている。

昔の村田川は、マコモが両側に生えており、水生生物に良い棲みかになっていた。ドジョウ、フナ、ナマズ、ウナギなどが採れた。水路や田んぼにはカワエビ、シジミがいて、それらをよく食べた。

今の村田川は完全に護岸され、小山町を通過する一部は暗渠になっている。昔、村田川の両岸に柵を立てる計画があり、家から田んぼへ向かうのが不便になるから、との理由で小山の東側は暗渠にした。

☆水辺の生き物昔

・カワエビ、モクズガニが豊富に居た

モクズガニは昔は豊富に居た。ミソをたべるだけで身は入っていない。

エビは大小2種類いて、何れも食用になり、小さい方(2~3cm、小エビと呼ぶ)は川に豊富に居たが、大きい方(大エビとよぶ)は食べるほどとれなかった。稲が終わって11月の寒い時期、小エビが寄っているところにザルで掬い取り、茹でて食べ、これらは貴重なカルシウム源であった。

・カワエビはお供えにもなった。

カワエビをどんぶりに離して神棚にお供えする「えびす講」という行事があった。お金も升に入れて一緒に備えた。家が繁栄し諸かる願掛けの様だが、ちっとも儲からなかった。50年程前はやってたがエビの消滅とともに無くなった。

・シジミが豊富、ザリガニは居なかった。

シジミは小山町に多く、向こうでは採れなかったらしく、わざわざ獲りに来ていた。逆に、アメリカザリガニはこちらには全く居なかったので、本納(図2参照)まで獲りに行き、戦後の食糧難の時代には食の足しになった。

・棲み分け

シジミは村田川の上流側に多く、そこにはカラスガイが居て、タナゴも居た。タナゴは時期により腹にピンクや緑の何とも言えない婚姻色が出たので印象深い。小エビはどこにでも居たが、大エビ、ナマズ、ウナギは板倉の方(小山町の下流側)に多かった。モクズガニは下流側の谷津で良く獲れた。

・ウナギが獲れた、ドジョウは売るほど獲れた

ウナギは仕掛けを入れて獲っていた。夕方竹の棒に糸と針とミズをつけ、川の縁に30本くらい立てた。一晩に2~3匹くらい。名人で5~6匹獲っていた。電気で感電させて獲る人もいた。

ドジョウは、田んぼの水の出口に遡るようにカゴの仕掛けを立てておくと、雨の後は、遡上して来たドジョウが食べきれないほどとれた。それを買いに来る商人も居た。

・その他の水生生物

30年くらい前にはゲンゴロウが居た。一部の谷津にはアカハライモリも居た。

☆水辺の生き物今

昭和20年代頃から除草剤が使われ始めて、それ以降シジミが減った様だ。暗渠になってからはシジミ、カラスガイ、エビ、モクズガニ、フナ、ウナギ、ナマズ何れもみなくなった。

ドジョウも少しは居る様だが、昔ほどの量では無いようだ。ゲンゴロウ、アカハライモリも今は見ない。

【考察】

以上、地元の方々から頂いたお話の一部を駆け足で紹介いたしました。「村田川の護岸、一部暗渠化前後で、慣れ親しんでいた生物の多くが消滅している」との証言が興味深い所です。

カワエビの多く、モクズガニ、ウナギなどは、一生の一部を海で過ごし、成長に伴い川を遡上し淡水生活へ移るという生態的な共通点があるため、村田川は、海と小山の連絡通路として重要な役割をもっていたと考えられるでしょう。

また淡水中で一生を過ごすフナやドジョウについても、生活史の多くを河川に棲みながら、田んぼを産卵場所として利用する行動が知られていて、彼らにとっては、河川と田んぼの行き来ができる環境が好ましいと言えるでしょう。

図2には、国土地理院の公開しているデータ(基盤地図情報)から作成した昭和の森を中心とした地図と、地形を示しています。小山町から東京湾まで、村田川がのびていますが、この距離は約20kmあり、また、海面から昭和の森までの高低差は約100mです。カワエビやモクズガニ、ウナギなどは、小さな体でこの距離を往復する(ウナギはさらに海洋中を旅する)のですから驚くべきことですね。これだけでも大きな旅な上、護岸や暗渠はさらに厳しい関門となっていることは想像に難しくないかと思えます。

実は、この赤シャツ親父、非常に稀ですが、時折、暗渠内に立派なモクズガニの個体を見かけることがあります。彼は紛れもなく、海から小山まで到達し、そこに居るに違いありません。

全国を見渡せば、護岸された河川と田んぼを行き来できる魚道を作り、生態系の回復する試みもあります。あるいは、こんな試みがカワエビやモクズガニを呼び戻す参考になるかもしれません。

【おわりに】

今後さらに調査・分析を進めながら過去に学び、これからを大いに想像しつつ、今年も小山谷津での稲作に、精いっぱい励みたいと思います。



図1 2019年5月の小山の谷津田 左の白い道の下を村田川が流れている。

※ 現状では田んぼの水は水路または塩ビ管を通し暗渠(村田川)に落ちる仕組みになっているが、暗渠から田んぼや水路に魚が遡上する仕組みにはなっていない。

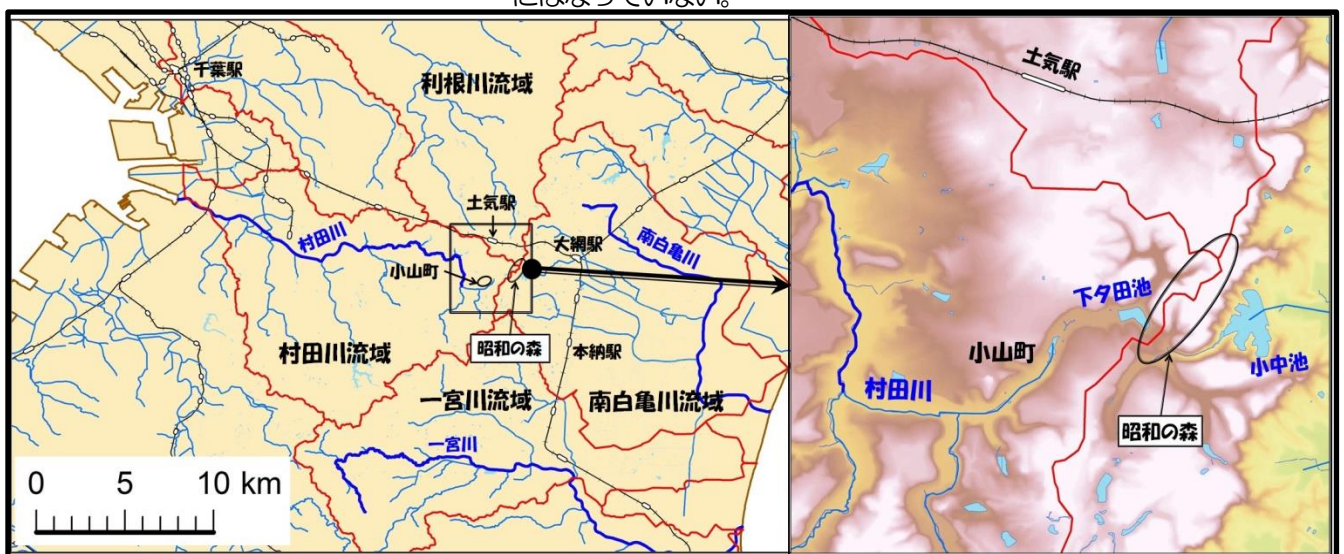


図2 昭和の森周囲の地形 昭和の森は利根川、村田川、南白亀川の流域(左図の茶色線で囲まれたエリア)の分水嶺になっている。右図から、千葉県の大地には複雑に入り組んだ谷津が発達していることも見て取れる。

※ 国土地理院、基盤地図情報(基本項目・数値標高モデル)を使用してGISにて作成



里山たんけんレポート

第232回 下大和田谷津田の観察会とゴミ拾い

2019年5月5日(日) 晴

林内はキンラン、ホウチャクソウが満開、マムシグサが咲き始めました。羽を休めているニホンカワトンボの未熟な個体が歩いているとヒラヒラと飛び立ちます。きれいなシャクトリムシ「ホテルガ」の幼虫も見られました。田んぼで鳴いているシュレーゲルアオガエルの大合唱が林内にも響いてきます。頭上ではメジロが盛んに囀っていました。田んぼではシオヤトンボが飛び、水路ではヤマサナエが羽化したばかりで抜け殻の上から弱々しく飛び林縁の枝にとまる姿なども観察しました。近年キビタキがやってくるようになり今日も囀りが聞こえました。ウグイス、ホオジロ、シジュウカラなどの囀りを耳に、たくさんの花や虫と出会いながら、フジと新緑に彩られた谷津の散策を楽しみました。

参加 13名 (大人8名、高校生1名、小学生2名、幼児2名 報告・写真 網代春男)



第234回 下大和田 YPP「田起こし」

2019年5月4日(土) 晴

田の土を返して酸素をすき込み、微生物の活動を活発にして、稲の古株などを分解して養分にします。田の草も盛大に生えています。大半の草は土に埋め込みますが田や畦に残せない一部の草は田んぼに害を及ぼさない場所にあげます。午後は家族で谷津田運動会です。3人ひと組で竹を持って田んぼの中を走るレースです。盛大な応援を受けて泥しぶきを上げて頑張って走りました。ころんだり、引きずられたりと様々なドラマが繰り広げられました。4月6日に皆で播いた種籾は緑濃く育ちましたので苗床のシートを外しました。田植えまで外気に当てて丈夫な苗に育てます。

参加86名 (大人47名、大学生2名、高校生1名、中学生1名、小学生25名、幼児10名。 報告・写真 網代春男)



第235回 下大和田 YPP「田植え」

2019年5月11日(土) 晴

明るい春の陽気の下、コシヒカリ、ノオリン1号、ミドリ米、黒米、赤米の田植えをしました。苗床から、各人稲の苗を取り出し、田んぼに移動して手植をします。少し残念だったのが、コシヒカリの苗が少なく、また成長が悪いため田植えの作業がしづらかった様です。それでも小学生のお子さんを始め、皆積極的に参加してくれました。

参加80名 (内訳：大人42名、学生1名、中学生1名、小学生25名、幼児11名 報告 平沼勝男)

里山クラブ 森と水辺の手入れ

2019年5月19日(日) 晴

向かいの山への登り口の土水路を渡る丸木橋が腐ってきたので架け直しました。スギ倒木から5m弱の長さの材を2本切り出し土水路に渡して橋とし、杭に竹を結び手すりにしました。土気NGOの田んぼを担当している方も来られてお昼の食事をしながら情報交換など語り合いました。谷津には渡ってきたばかりのホトトギスの声が響いていました。

参加 大人9名、小学生1名、幼児2名 報告 網代春男)



第173回・174 小山町 YPP「田植え」

2019年5月12日(日)、26日(日) 晴

コシヒカリの田植えをやりました。順調にスクスクと育った苗なので、植えやすかったです。とても暑い日でしたが、大人以上に子どもたちが頑張ってくれて、みんなで楽しく田植えができました。

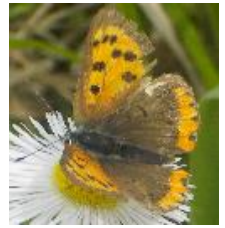
5月12日 (大人5名)

5月26日 (大人5名、小学生2名 報告・写真 たんぼぼ)

<谷津田・季節のたより>

小山町

- 5月 3日 ベニシジミにアオスジアゲハ舞う。(たんぼぼ)
5月 14日 ウグイス、キビタキ、メジロ、ホオジロ、ヤマガラ、シジュウカラ、コジュケイ、キジバト、カワラヒワの囀り。(高山)
5月 24日 カヤネズミのお散歩(たんぼぼ)
5月 24日 ショウジョウトンボが飛び始め、田んぼはシオヤトンボからシオカラトンボ優勢に。(高山)



ベニシジミ 撮影 たんぼぼ

下大和田

- 5月 15日 アズマヒキガエル 子ガエルになって上陸。(網代)
5月 19日 ホトトギス今季初。(網代)
5月 24日 ゴマダラチョウ今季初。(網代)

イベントのお知らせ

谷津田ってどんなところ? と興味をお持ちの方、お米づくりを経験してみたいなと思っている方、谷津田プレーランドプロジェクト(YPP)のイベントには大人から子どもまで、はじめての方でも好きな時にご参加いただけます。家族で、お友達どうして、もちろん、お一人でも気軽にいらして下さい。

連絡先(いずれも): ちば環境情報センター(Tel&Fax: 043-223-7807 E-mail: hello@ceic.info/)

- ご注意: ・車でこられる方は必ず指定の駐車場に止め、農道などにおかないでください。
・近くにトイレがありませんので、集合前に一度済ませておくご協力をお願いします。
・小学生以下のお子さんは保護者同伴で参加ください。
・けがや事故がないよう十分な注意は払いますが、基本的に自己責任でお願いします。

▼第236回 下大和田 YPP 「田の草取り」(6月8日)

▼第237回 下大和田 YPP 「田の草取り」(7月6日)

- ・稲の生育を阻害する草を取ります。

日時: 2019年6月8日(土) 9時45分~14時 小雨決行
2019年7月6日(土) 9時45分~14時 小雨決行

場所: 千葉市緑区下大和田谷津

集合: 現地 初めて参加する方は駐車場や会場を案内しますので事前に網代(あじろ)090-2301-0413までご連絡ください。

交通: JR千葉駅10番成東あるいは中野操車場行き、ちばフラワーバスで中野操車場バス停下車、徒歩5分で現地。<千葉駅発8:25、8:40など、所要時間45分>料金540円

持ち物: 弁当、飲み物、長袖長ズボンの服装、着替え、帽子、軍手、敷物など。

参加費: ちば環境情報センター会員300円、一般500円(小学生未満無料)、米作り年間参加は別途。

主催: ちば環境情報センター 共催 ちば・谷津田フォーラム

▼里山くらぶ 森と水辺の手入れ

林内の下刈りや小川回りの手入れなどをします。

日時: 2019年6月16日(日) 9時45分~12時 ☆雨天中止

場所: 千葉市緑区下大和田谷津 交通: (同上)

集合: 現地。初めての方はご連絡ください。(同上)

持ち物: 弁当、飲み物、長袖長ズボンの服装、軍手、帽子、敷物

主催: ちば環境情報センター



カヤネズミ 撮影 たんぼぼ

▼第234回 下大和田谷津田観察会とゴミ拾い

梅雨の最中ですがアカトンボの仲間も羽化して、生きものはますます賑やかになります。

日時: 2019年7月7日(日) 9時45分~12時 ☆雨天決行

場所: 千葉市緑区下大和田谷津 交通: (同上)

集合: 現地 初めて参加の方はご連絡ください。(同上)

持ち物: 筆記用具、飲み物、長袖長ズボンの服装、長靴、帽子、あれば双眼鏡、ゴミ袋、午後まで活動する方は弁当、敷物。

参加費: 100円(小学生以上、資料代など)

主催: ちば環境情報センター、ちば・谷津田フォーラム

▼第175回・176回 小山町 YPP「田植え」

苗代で育った古代米を植えます。

日時: 2019年6月16日(日)、23日(日) 10時~ ☆小雨決行

場所: 千葉市緑区小山町 リンドウ広場(ご連絡いただければ地図をお送りします)

持ち物: 飲み物、長靴(長めのもの)、帽子、軍手、敷物。

参加費: 100円(小学生以上、資料代など)

主催: ちば環境情報センター

■編集後記 令和の田作りは、苗も順調に育ち非常に軽快なスタートが切れました!折しも今、谷津田は生命の爆発!小学校の子どもたちも田んぼに登場!ウキウキしつつも冷静に淡々と、農繁期を突っ走ります!(赤シャツおやし)